



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年02月28日 第1058号「週刊五十嵐レポート」

リアル、強者の戦略

2月27日付日経新聞、ロシアとウクライナの戦闘の舞台は26日までに首都キエフに及んだ。事の良し悪しを敢えて考えずに見てみる。

27日付朝日新聞に戦力の比較があった。ロシア、兵力90万人、攻撃機1511機、攻撃ヘリ544機、戦車12,420両。ウクライナ、兵力20万人、攻撃機98機、攻撃ヘリ34機、戦車2,596両。ロシアは兵力で4.5倍、攻撃機で15倍、攻撃ヘリ16倍、戦車4.8倍。ロシアとウクライナの軍事力には大きな差がある。

ロシアは強者、ウクライナは弱者。強者と弱者の差が3倍以上開くと、ウクライナは必ず負ける「必敗の法則」に該当する。強者であるロシアは、ウクライナ東部、ベラルーシ側、黒海側から攻める「3点攻撃法」で中心に攻め入る。ロシアはサイト障害や偽メッセージ送付など複数手口を同時にしかけるサイバー多重攻撃を展開した。社会経済を混乱させるために数か月前から準備をしていた。

通常に考えれば、ウクライナはロシアと戦争する力はない。だがロシアから仕掛けてきたからやむを得ず対応。停戦協議が不調に終わった。西側の援軍もない。米国は非難するアナウンスだけで、軍事的行動を取らなかった。国際世論はロシアを非難し、西側はロシアに経済制裁をするだけ。いずれロシアはウクライナを制圧するだろう。どこもウクライナを助けようとはしない。これが現実。このような時代に生きている。

朝日新聞にシンガポールの大学教授のコメント、「米国のロシアへの対応は予想より非常に弱かった。アジアの地政学にも波紋を広げる。中国は、米国との競争の先行きに自信を深めた。逆に米国はアジアの友好国の信頼を損ねた。『脅威にさらされた際、米国の対応が同じように弱かったら』と」。

経営の場合、弱者はやり方によっては、強者と戦わないで自分の土俵で相撲が取れる。たとえそこに参入してきても、新たな道を探ることができる。これが国と国になるとそう簡単にはいかない。歴史を学ぶとロシアの行動が異常なことでもない。世界史は戦争の歴史、そのつかの間に平和がある。世の中に翻弄されようと、地道に生きる道を探る。

ちょっと
気なる出来事

2月6日朝日新聞、「**在事力**」は元ソフトバンクホークス監督工藤公康氏。野球の技術は反復練習でしか身につかない。しかもただやればいいのではなく、しっかり考え計画してトレーニングしなければ自分の体に染み込んでこない。我慢して継続する覚悟が選手生命を長くする。

やがて選手として現役を引退する時が来ても、精一杯努力してきた自分を信じて「俺はまだまだこれからだ」と次の仕事に挑んでほしい。

これからも自分らしく「現役」でいるために、この先**5年**、**10年**にはどうありたいか。新しい知識はあるか、武器を持てるかなど、今日から考えを積み重ねていくことが大切。

人生は一生勉強。僕は現役引退後に**50歳**で大学院に入り、野球選手の障害予防について研究を進めた。子供たちを含め選手がケガや故障で野球を諦めないように支援したいから。いつでも今を全力で生きることが大切。

継続そして一生勉強。常に新しい知識、新しい武器を持つ。



一口メモ
知識

方向性を見極める

方は類をもって聚（あつ）まり、物は群（むれ）をもって分かれ、吉凶生ず。

「方」は方向性。物事には必ず性質、方向性がある。

同じ方向に進むものは同類が集まり、種類に分けて群をなす。

事象は方と群であらわれ、そのあり方によって吉凶も生じる。

これが変化の原理、原則。

たとえば、良い品物をつくりたいという会社には、同じ志を持った人、良い品づくりのための物が集まってくる。

このように、どういう方向性を持つ群かと事象を観察するならば、吉凶は自明の理である。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榊五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

